科目ナンバリング							
授業科目名<英訳>	英語リーディング ER32 1S7 English Reading			担当者所属職名・氏名	非常勤講師 伊藤　聡子		
群	外国語科目群		分野(分類)			使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	月1	配当学年	1回生	対象学生	全学向

[技能領域]

アカデミックリーディング

[授業の概要・目的]

この授業では、DNAの立体構造の発見に対してノーベル賞を受賞した James D. Watson が、発見に至るまでの紆余曲折を記した回顧録 Double Helix (1968) を読んでいきます。外国語のテクストを理解する上では、正確な文法知識や語彙知識を基にことばの表面的な意味を理解するための読みの段階と、それだけでは理解できないテクストの発するメッセージを分析するための読みの段階があります。後者の段階では丁寧に細部を読む精読の技術と、細部を読み込む部分が全体の中でどのような位置を占めるかを把握するための速読の技術の両方を組み合わせる必要がありますが、この授業は回顧録という使用テキストの特性から、特に速読力の向上を目的とします。

[到達目標]

・一定の時間の間にまとまった分量のテクストを読むために、基本的速読スキルを使うことができる。
・複数回にわけて読んだ内容を統合することができる。
・速読・精読を併用して細部の分析・解釈ができる。

[授業計画と内容]

授業は演習形式で行い、初回からテキストを読んでいきます。基本的に各回で2章ずつを予習してきてもらい、授業では予習での理解内容をグループに分かれて 確認していきます。ただし進度は各章の長さ、速読スキルへの習熟度により適宜調整をするため、一部の章は自習課題となる場合もあります。

第1回　オリエンテーション、Preface, Ch. 1
第2回　Ch. 2 & 3
第3回　Ch. 4 & 5
第4回　Ch. 6 & 7
第5回　Ch. 8 & 9
第6回　Ch. 10 & 11
第7回　Ch. 12 & 13
第8回　Ch. 14 & 15
第9回　Ch. 16 & 17
第10回　Ch. 18 & 19
第11回　Ch. 20 & 21
第12回　Ch. 22 & 23
第13回　Ch. 24 & 25
第14回　Ch. 26 & 27
第15回 期末試験またはレポート
第16回 フィードバック

英語リーディング ER32(2)へ続く↓↓↓

英語リーディング ER32(2)

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

成績は以下の項目を組み合わせて総合的に評価します：小テスト（30%）、授業への参加度（30%）、課題（10%）、期末試験またはレポート（30%）。ただし「その他」欄記載の出席要件に注意してください。

[教科書]

James D. Watson 『The Double Helix』（Phoenix）ISBN:9780753828434

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

平易な英文ですが、毎週20ページ前後を読むことになります。辞書を引かなくても一度では読めない量なので、話の流れをつかむことを目的に、毎日少しずつ読む習慣をつけてください。

[その他（オフィスアワー等）]

Students are expected to attend class regularly. Failure to attend class regularly may result in a reduction of the student’s overall grade. Students will be penalized 3 demerits for each absence and 1 demerit for each 30-minute period they are late (the “demerit” is a unit used to keep track of your attendance). Students who accumulate more than 15 demerits (the equivalent of approximately 5 absences) will receive an unsatisfactory grade (“F”) for the course (=no credits for the course). As a rule, no make-up work will be given for unexcused absences.